

学びへの興味・関心と学修意欲を評価

公募制自己推薦（AO型）

小論文・筆記・面接試験等あり

他大学との併願可

【文学部】【神道文化学部】【法学部（法律学科 法律専攻・法律専門職専攻・政治専攻）】【経済学部】【人間開発学部】【観光まちづくり学部】

出願期間 (消印有効)	令和7年9/29(月)～10/3(金)	試験日	第1次 選考 ※神道文化学部、経済学部のみ。 他の学部は書類選考 ※法律学科法律専門職専攻は第1次選考なし。	第2次 選考 (最終)	10/19(日)	11/9(日)
合格発表日	第1次選考 ※法律学科法律専門職専攻は第1次選考なし。			第2次選考 (最終)	10/22(水)	11/19(水)
※文学部中国文学科・史学科、神道文化学部、法学部法律学科 法律専攻・政治専攻、経済学部は社会人を含む。						

出願資格・出願要件・選考方法

【出願資格】 全学部共通

一般選抜入試の出願資格(P.008)に準ずる。

【出願要件】

各学部・学科において定める。

なお、一部学科の出願要件として利用可能な英語検定試験の種類およびCEFRレベルの基準については、B日程[英語検定試験の利用について](P.014)に示す一覧表に準ずる。CEFRレベル・スコアは令和5年4月以降に取得したものを有効とする。

文学部

日本文学科

【出願要件】

本文学学部日本文学科で学びたいという強い意欲を持ち、次の項目のいずれかについて関心を強く持つ者。

- ①日本古典文学の学修・研究
- ②日本近現代文学の学修・研究
- ③日本語(古代語・現代語・方言など)の学修・研究
- ④伝承文学(民俗学、口承文芸、祭礼・芸能など)の学修・研究
- ⑤書道に関する学修・研究

【選考方法】

■第1次選考（書類選考）

- ①課題レポート(2,000字程度)
出願要件の①～⑤のうち、自身が選んだ志望項目に即して具体的な研究テーマを考え、それについて自身が調査したことや考えたことを詳しく論述し、指定の用紙に記述しなさい。用紙の「表題」の欄には、下の【例】を参考にして自身が考えたレポート題目を記し、最後にある「注」の欄には、レポート執筆に際して参考にした文献や資料(web ページも含む)の名称を、著者名・出版社名・URL等とともに明記しなさい。なお志望動機や入学後の抱負などは志望理由書に記し、課題レポートには記入しないこと。
【例】『「源氏物語」の自然描写について』『谷崎潤一郎『細雪』の研究』『「昔物語集」の敬語』『岩手県三陸地方の神楽について』など。
- ②志望理由書(1,000字程度)
國學院大學の日本文学科に入学して、何を、どのように学びたいと考えているのか、どの専攻に進み、どのようなジャンル(時代・作品・作家など)を研究し、どのようなテーマで卒業論文を書きたいと考えているのか、できるだけ具体的に詳しく記述しなさい。また、あなたがこれまで学校の授業以外に、「文学」とどう関わってきたか、これからどう関わっていきたいと考えているのかを、合わせて記述しなさい。
- ③活動レポート(詳細は入学試験要項で確認すること)

■第2次選考

- ①筆記試験(古文を読んだの論述、全体で1,000字程度、90分)
※入学試験要項で指定する古語辞典のみ持ち込み可。
- ②面接試験(約20分)
自身が日本文学科で学びたいという目的意識や意欲・志向性がどれほど明確であるかということを、古典に関する知識や関心も含めて確認する。また、自身が書いた課題レポートの内容についても詳しく質問する。

【選考のポイント】

■第1次選考

- いずれの書類も、箇条書きは認めません。全体がひとつながりの文章になるよう、構成を考えて書いてください。改行によって生じた余白は、文字数に含めません。
各書類における選考のポイントは以下の通りです。
①課題レポート
・研究テーマが明確かつ具体的であるほど評価が高くなります。

- ・レポートのテーマ・題目は、自身が選んだ志望項目の研究分野に一致するような内容を考えてください。
- ・学科への志望動機や抱負などは、課題レポートではなく、志望理由書に書いてください。
- ②志望理由書
・あなたがどういった人間で、あなたのどういったところが國學院という大学に向いているのか、という点を「自己推薦」するものです。
- ・日本文学科での「学び」に対する意欲を記述してください。学科の「学び」に直接関わらないこと(部活動やスポーツなど)を書いてはいけません。「学び」以外の自己アピールは、「活動レポート」に記載してください。
- ・國學院大學の特色は、図書館の蔵書が多い、教員になる卒業生が多いといった表面的なことではありません。これまで國學院大學が取り組んできた多様な「研究」の歴史を調べ、その特色をできるだけ理解した上で、より深い志望理由を考えてみてください。

■第2次選考

①筆記試験

これから日本文学科で学んでいくために必要な、総合的な知的能力があるかを測る論述試験です。文章を読んで類推し想像する力と、自然な日本語の表現能力を重視します。

②面接試験

- ・第1次選考で提出された各書類の内容に基づいて、日本文学科での「学び」に対する意欲の強さを確認します。課題レポートの内容についても具体的に質問をします。さらに、日本語学・日本文学・伝承文学・書道への関心の高さや、高等学校卒業までに身に付いているはずの国語の常識についても確認します。
- ・同時に、あなたが本当に日本文学科に合っているかという適性も確認します。適性というのは、何よりも読書が好きか、本当に文学が好きか、といったことです。
- ・面接では、その場で考えて答える自然な対話を高く評価します。無理に自分をアピールする必要はありません。ぜひ自然体で臨んでください。

中国文学科

【出願要件】

本文学学部中国文学科で学びたいという意欲を持ち、次の項目のいずれかについて志望(複数可)を強く持つ者。

- ①中国古典の学修・研究
- ②中国近現代文学の学修・研究
- ③中国文化の学修・研究
- ④教職を目指しての専門分野の学修・研究

【社会人受験資格および第1次選考の免除】

上記の出願要件を満たし、かつ令和8年4月1日現在、満22歳以上である者は、第1次選考を免除する。就業経験は問わない。

【選考方法】

■第1次選考（書類選考）

- ①志望理由書(900～1,000字)
本学科を志望する理由について、入学後の取り組みの方針と、すでに取り組んでいる学び(出願要件の①～④から選択した項目と関連づける)を含めて、具体的に記述する。
- ②活動レポートおよび添付資料(詳細は「選考のポイント」および入学試験要項を確認すること)
- ③(社会人に対する第1次選考免除申請者のみ)履歴書

■第2次選考

- ①授業の受講とレポート作成(120分)
授業(50分)を受け、授業内容に関するレポート(1,000字程度、70分)を作成する。
- ②面接試験(約20分)
大学での勉学・研究に対する目的意識、修学意欲などについての面接を行う。

【選考のポイント】

中国文学科のアドミッション・ポリシー(以下「AP」)に基づき、志向性や意欲を中心に選考しますので、学びへの関心と中国文学科への理解がその前提となります。APおよび4プログラム制・セメスター留学など、中国文学科の教育内容の特色について、事前にホームページ・入学案内・オープンキャンパスなどで確認してください。

選考の視点は以下の通りです。

■第1次選考

①志望理由書

中国文学科への志向性を確認します。中国への関心・探究心をもったきっかけや、主体的に取り組んでいる学びについて記すとともに、中国文学科の特色をふまえ、その取り組みを入学後の学びにどうつなげるかを記してください。

②活動レポート

令和5年4月以降の生活を振り返り、自身が主体的に取り組んだ活動について、具体的に800字以内で記してください。

■第2次選考

①授業の受講とレポート作成

授業内容の要点を把握してまとめられているか、そこからさらに自分の考えを展開できているかが評価のポイントになります。要約や意見を、正しく論理的に表現する練習をするといいでしう。

②面接試験

中国文学科への理解や志向性・意欲を確認します。志望理由や現時点・入学後の学びについて説明できるとともに、質問に対して自分の言葉でしっかり答えられるかが求められます。

外国語文化学科

【出願要件】

本文学学部外国語文化学科で学びたいという意欲を持ち、次の項目のいずれかについて志望(複数可)を強く持つ者。

- ①2外国語(英語および独・仏・中国語のいずれか)についての学修・研究
- ②外国語によるコミュニケーションや言語文化についての学修・研究
- ③英語・独語・仏語・中国語圏の文化についての学修・研究
- ④外国語による日本文化の発信活動

かつ、英語検定試験でCEFRのB1以上のスコア(P.014参照)を持つ者。

【選考方法】

■第1次選考（書類選考）

- ①志望理由書(900～1,000字)
- ②活動レポート(詳細は下記「選考のポイント」および入学試験要項を確認すること)
- ③英語検定試験におけるCEFRのB1以上のスコア証明書
- ④ドイツ語・フランス語・中国語の検定試験合格証明書
※①～③は必須、④は該当者のみ提出

■第2次選考

面接試験(約20分)

大学での勉学・研究に対する目的意識、修学意欲などについての面接を行う(英語による質疑応答を含む)。

【選考のポイント】

■第1次選考

第1次選考では、外国語文化学科で学ぶ強い意志があるか、入学後の学習に十分な英語能力があるかどうかを確認します。

①志望理由書

単に学ぶ意志があることを示すだけではなく、その意志を持ったきっかけや理由等についても説明してください。また、入学後は何を学びたいか、大学での学びを将来の進路にどうつなげるか、現時点で考えられることを具体的に述べてください。

②活動レポート

令和5年4月以降の生活を振り返り、以下2点についてそれぞれ200～800字で記述してください。

- (1)自身が主体的に取り組んだ活動について
- (2)外国語(英語・ドイツ語・フランス語・中国語)の資格・検定試験に関する取り組みについて
- (1)には学業以外の活動を中心に記入してください。
- (2)では、普段の外国語学習についても言及して構いません。すでにドイツ語・フランス語・中国語の検定試験に合格している場合は、証明する書類を添付してください。英語検定試験のスコアは、審査の対象として重視されます。証明書を必ず添付してください。CEFRのB1以上であれば出願できますが、より高いスコアが望まれます。

■第2次選考

第2次選考は面接試験です。面接試験には、英語による質疑応答が含まれています。自己紹介や入学後の学修計画、アピールしたいポイントなどを整理し、それらを日本語と英語で論理的かつ分かりやすく説明できるよう、よく練習しておきましょう。ただし、準備してきた内容にばかり気をとられて質問をとり違えたりしないよう、落ち着いて臨むことも重要です。

史学科

【出願要件】

本文学学部史学科で学びたいという意欲を持ち、次の項目のいずれかについて志望(複数可)を強く持つ者。

- ①日本史学に関する学修・研究
- ②外国史学に関する学修・研究
- ③考古学に関する学修・研究
- ④地域文化と景観に関する学修・研究

かつ、英語検定試験でCEFRのA2以上のスコア(P.014参照)を持つ者。

【社会人受験資格】

上記の出願要件を満たし、かつ令和8年4月1日現在、満22歳以上である者は、本人の申請に基づいて、以下の出願書類のうち③活動レポートの提出を免除する。就業経験等は問わない。

【選考方法】

■第1次選考（書類選考）

- ①レポート(2,000字程度)
史学科の各専攻分野(出願要件の①～④)のいずれかに関する主題を選び、調査・学習した内容を記述する。冒頭に主題を明記した表題をつけ、調査にあたって参照した文献・史資料を所定欄に必ず記入すること。
- ②志望理由書(1,000字程度)
表題に、史学科で学びたい動機またはテーマを明記すること。
史学科の各専攻分野(出願要件の①～④)のうちの何を、どのように学びたいかを具体的に述べること。また、史学科で学びたいテーマについて、これまで自主的に学んできた事柄に言及すること。
- ③活動レポート(800字以内、社会人は免除)
高等学校在学中に、主体的に参加、経験した以下の各項に当てはまる事柄を挙げ、それらの活動を通じて学んだこと、身に付いたことを簡潔に述べること。
a) 自主的な学習・探求活動
b) 自主的な学習・探求活動の成果としての資格・検定試験の結果、表彰、報告発表など
c) 高等学校での部活動、課外活動、学校行事など
d) 学校外でのボランティア活動、社会貢献活動
e) 海外留学
f) その他
※上の活動に関わる資格証明書、表彰状、報告書等の資料の提出は求めない。
- ④英語検定試験におけるCEFRのA2以上のスコア証明書(P.014参照)
- ⑤(社会人のみ)履歴書、高等学校の卒業証明書または高等学校卒業程度認定試験・旧大学入学資格検定試験合格証明書

■第2次選考

- ①論述試験(全体で1,000字程度の論述、90分)
英文、古文、漢文の文章題から1つを選び、与えられた課題について論述する。文章の内容を理解するとともに、その理解をもとに、自身の見解を論理的に述べる事が求められる。さらに、出願時に作成したレポートに関する論述を課す。
- ②面接試験(約20分)
大学での学修に対する目的意識、修学意欲などについて面接を行う。

【選考のポイント】

■第1次選考

①レポート

(1)主題の設定は適切か

レポートは読後感想文ではなく、調査研究した事柄を論証し、何らかの結論を得るものです。まず、歴史学、考古学、地域文化と景観に関して、探求に値する主題を選ぶことが重要です。そのためには、その主題に関する研究文献、調査報告書、史資料等入手・読解している、あるいは自身で発掘調査等に参加しているなど、主題に関する実体的な根拠があることが前提です。

(2)構成は適切か

レポートの構成の基本は、主題を明示する「序論」、調査内容を論述する「本論」、論述の結果得られた主題に関する「結論」の3部構成です。段落設定を適切に行い、必要に応じて番号を振って議論を整理するなど、論点が分かりやすく整理されていることも選考のポイントです。

(3)論述のしかたは適切か

主題について、根拠を示したうえで合理的な説明を行ってください。根拠のない空論や個人的見解に終始しないことが重要です。根拠に基づく公正な判断力があるか、それをだれもが納得できる論理をもとに、適切な日本語で表現できているかを評価します。

(4)根拠を示しているか

過去におきた事柄をレポートにまとめるときには、想像ではなく、確実な

- 根拠を示して論述することが必須です。したがって、根拠として参照した文献、史資料、調査報告書等を、正しく列挙してください。根拠資料の提示がない場合、個人的な想像と区別がつかず、レポートとして評価できません。
- ②志望理由書
- 入学後、出願要件①～④の分野のうちの何を、どのように学びたいかを、具体的に記載してください。その主題に関してこれまで自主的に調査研究や学習をした経験がある場合は、それにも触れ、史学科を志望する理由を明確に述べてください。
- ③活動レポート
- 高等学校の学習以外で、学校の内外で自主的な活動を行った事柄を記載してください。a)～e)に挙げた活動以外でも構いません。その活動を通して、身に付いたことを述べてください。なお、活動の成果を証明する表彰状、新聞記事等の添付資料は不要です。

- 第2次選考
- ①論述試験
- 出題された英文・古文・漢文をしっかり読みこなし、内容を要約し(300～500字)、そのうえで、その内容について、自分の見解や意見を300～500字程度で論述します。出題文の内容が理解できなければ、自分の見解を書くことができませんので、英文・古文・漢文の読解力をつけておくことが必須です。さらに、要約する力、見解を明快に書く力、日本語表現力を磨く訓練も必要です。また、出願にあたって提出したレポートについても200字程度での説明を求めます。
- ②面接試験
- 史学科への志望動機、入学後の学生生活の抱負などを問います。史学科で何を、どのように学びたいかを明確に述べるようにしてください。

哲学科

- 【出願要件】
- 本文学部哲学科で学びたいという意欲を持ち、次の項目のいずれかについて志望(複数可)を強く持つ者。
- ①西洋古代・近代・現代の哲学、倫理学の学修・研究
- ②東洋哲学(日本哲学、インド哲学、中国哲学など)の学修・研究
- ③応用倫理学(生命倫理、環境倫理など)の学修・研究
- ④宗教思想の学修・研究
- ⑤西洋古代・近代・現代の美学、芸術哲学の学修・研究
- ⑥西洋・東洋・日本美術史、美術思想の学修・研究
- ⑦芸術学(映像論、音楽論、舞踏論、建築論など)の学修・研究

- 【選考方法】
- 第1次選考(書類選考)
- ①レポート(800字程度)
- 哲学・倫理学・美学・芸術学・美術史をテーマとする、もしくは、それらと関連する内容を含む、書籍1冊ないし美術作品・映像作品等1点を取り上げ、それについて紹介し、どのようなテーマ・内容に深く関心を持ったのか、またその理由を示すこと。なお、書籍の場合は第2次選考の課題図書とは異なるものを選び、書籍名・取り上げた作品名等を表題の欄に記入すること。
- ②自己推薦書(900～1,000字)
- これまでの学習意欲と関連づけて、本学科入学後に学びたいことについて示すこと。
- ③活動レポート(詳細は入学試験要項で確認すること)

- 第2次選考
- ①小論文試験(1,000字程度、90分)
- あらかじめ次の課題図書2冊のうち1冊を選択して読んでいることを前提とした試験を行う。課題図書は、試験当日2冊とも持ち込み可とし、解答に使用する図書は問題を見た後で決定してよい。なお、図書に書き込みをすること、頁を折り曲げることは可とするが、別紙を持ち込むこと、付箋を貼ることは認められない。〈課題図書〉
- Eトゥーゲントハットほか『ぼくたちの倫理学教室』(平凡社新書)
- 伊藤亜紗『目の見えない人は世界をどう見ているのか』(光文社新書)
- ②面接試験(約20分)
- 大学での学問・研究に対する目的意識、修学意欲などについての面接を行う。

- 【選考のポイント】
- 第1次選考
- ①「レポート」
- 次の3点を特に重視します。
- (1)書籍や作品について、論点を絞ってしっかりとまとめられているか
- 取り上げる書籍や作品の内容すべてを網羅する必要はありません。自分がとりわけ関心を持った箇所を明確に示し、正確にまとめられているかを見ます。
- (2)自分なりの意見の形成ができていますか
- 参考書等からとってきたような考えではなく、あなたが何を理解し、どのように考えたかを書いてください。ポイントは結論に至る思考過程であり、導き出された意見が正しいかどうかではありません。

- (3)正しい日本語で、論理的に書けているか
- 論述は、興味や関心の異なる他人に自分の考えを理解してもらうためにあります。自分の考えの理由・根拠を示し、正しい日本語で、分かりやすく思考過程を説明してください。
- ②自己推薦書
- なぜあなたが哲学科で学ぶ必要があるのかを、これまでの学習意欲と関連づけて述べるものです。高校での活動記録に終始せず、そうした活動や日々の思索を通じて、自分がなぜ哲学あるいは美学を学ぼうと考えたか、具体的に何をどのように学び、どのような方向性で自分の考えを深めていきたいかを書いてください。

- 第2次選考
- ①小論文試験
- 課題図書の内容をふまえた論述問題が課されます。ただし、この試験は、問いの正解のようなものを課題図書の中から探す作業ではありません。第1次選考の「レポート」でのポイントに加えて、提示されている課題が「いかなる問い」を扱ったものであるかを正確に把握しているかどうかを見ます。
- たとえば、過去に以下のような課題が出ています。
- 過去の例) プラトン著・藤沢令夫訳『メノン』(岩波文庫)
- 問 『メノン』の冒頭において、メノンはソクラテスに対して、徳は人に教えられて学ぶことのできるものであるか、それとも教えられて学ぶことはできずに訓練によって身につけられるものであるか、それともまた、学んでも訓練しても得られるものではなく生まれつきの素質によるものか、さらにまた、そのいずれでもない仕方によるものなのか、と問うている。あなたは『メノン』を読んで、「学び」の本質についてどのように考えたかを述べよ。(1,000字程度)
- 上記の例であれば、「徳は人に教えられて学ぶことのできるものであるか」や、「学ぶことはどのようなことか」といった根本問題を、まずは理解していることが必要です。そうした前提をふまえずに、たとえばプラトンの思想などについて詳細に説明できても意味はありません。課題で言及されている人物や事柄について知っていることは有益ですが、たとえ何も知らなくとも、問われている課題について深い思考ができなければなりません。そのためには、課題図書をただ読むだけでなく、そこに出てくる用語などを調べ、理解を深めておくことが必要です。
- ②面接試験
- 哲学科への志望理由や、入学後の学生生活への抱負などを、明確に説明することが求められます。また、哲学・美学におけるトピックに関する問題についてどう思うか、いくつか問われる時があります。その場合も、とくに固有名詞などに詳しくある必要はなく、問題の所在を把握しているかどうかと、そこから論理的に自分なりの意見形成ができているかどうかが問われます。朗らかかどうかといった、一般的な面接試験で求められる外向的な要素はあまり重視しません。

神道文化学部

神道文化学科

- 【出願要件】
- 本学神道文化学部神道文化学科で学びたいという意欲を持ち、次の項目のいずれかについて志望(複数可)を強く持つ者。
- ①古代の神道史・神社の学修・研究
- ②近世・近代の神道思想や制度の学修・研究
- ③祭式・神社実務の学修・研究
- ④宗教・宗教文化の学修・研究
- ⑤比較宗教文化・国際化の学修・研究
- ⑥現代社会と宗教、宗教理論の学修・研究
- かつ、英語検定試験でCEFRのスコア(令和5年4月以降に取得したもの)を持つ者。

- 【社会人受験資格】
- 上記の出願要件を満たし、かつ令和8年4月1日現在、満22歳以上である者。

- 【選考方法】
- 第1次選考
- ①総合問題試験
- 「神道と宗教に関する問題」を出題し、神道文化学部での学びを深めるうえで求められる、神道文化・宗教文化に関連する知識や表現力を問います。
- ②書類選考
- ・調査書
- ・志望理由書(900～1,000字)
- ・活動レポート(資料添付は任意)(詳細は入学試験要項で確認すること)

- 第2次選考
- 面接試験(約20分)

大学での学修・研究に対する目的意識、修学意欲などについての面接を行う。

- 【選考のポイント】
- 出願要件6項目のいずれかについて強い関心を持ち、それへの学修・研究意欲に富み、かつ神道文化学部を選ぶ明確な理由のある人物を募集します。特に学修・研究への志向性を重視します。

- 第1次選考
- 総合問題試験
- 総合問題試験では、神道・宗教に関する知識や表現力を問います。入試要項に課題となる図書が載せてありますので、よく確認し、課題図書の内容を理解できるまで、何度もよく読んでください。参考図書もよく読んで、神道・宗教に関する理解を深めてください。
- なお、課題図書は、自分の興味がある箇所だけでなく、指定された範囲も含めて熟読してください。
- 《課題図書》
- ・國学院大學神道文化学部編『プレステップ神道学〈第2版〉』(弘文堂、2023)
- ・石井研士著『プレステップ宗教学〈第3版〉』(弘文堂、2020)
- 《参考図書》
- ・國學院大學日本文化研究所編『神道事典(縮刷版)』(弘文堂、1999)
- ・岡田莊司・小林宣彦編『日本神道史(増補新版)』(吉川弘文館、2021)

- 第2次選考
- 面接試験
- 大学で学修や研究したい内容について質問しますので、関連する図書などを読み、はっきりした口調で明確に答えられるようにしましょう。
- なお、毎年、コミック本・SF本等によりイメージ化された神主・巫女等に興味をもって受験する方がいますが、課題図書以外に専門的な図書を1冊も読まず、漠然とした知識を持つだけでは適格者とは認められませんので、注意してください。
- 神道文化学部で学修・研究するにふさわしい人物であることをアピールしてください。

法学部

法律学科

- 【出願要件】
- 法律学・政治学に強い関心を持ち、その勉学に積極的・自発的に取り組み、学ぶ意欲があること。

- 【社会人受験資格および第1次選考の免除(法律専攻・政治専攻)】
- 上記の出願要件を満たし、かつ次の条件を満たす者は、第1次選考を免除する。
- 社会人：令和8年4月1日現在において、満22歳以上で、かつ職についている者(パートおよびアルバイトならびに令和8年4月1日からの就職内定を含む)、または主婦もしくは主夫である者。ただし、令和8年4月1日現在において満24歳未満の者については、令和7年4月1日以前から職についていること(パートおよびアルバイトを含む)、または主婦もしくは主夫であること。

- 【選考方法(法律専攻・政治専攻)】
- 第1次選考(書類選考)
- ①エントリーシート
- 「志願理由について」、「あなた自身のこと」、「社会への関心」という3つの項目につき、所定の様式に従って記入してください。
- ②ALT(アカデミック・リテラシー・テスト)型レポート課題
- 日本の地域公共交通(路線バス・地方鉄道・タクシー・オンデマンド交通等)は、多くの地域で人口減少や高齢化が進んでいることもあり、さまざまな課題に直面しています。日本の地域公共交通が直面する課題を解決するためにどのような取り組みを実施するべきかについて、あなたの意見(提言)をまとめたレポートを作成してください。
- レポートは、以下の1から3の順に従って構成してください。また、レポートの総文字数は、1,600字以上2,200字以内とします。

1. 日本の地域公共交通が置かれている現状について、以下の【参考となる文献①】に掲げた文献等の記述内容を踏まえ、説明してください。説明に際しては、特に、それが自家用自動車を保有しない人や運転免許を持たない人に与える影響についても、併せて言及してください。
- 【参考となる文献①】
- ・宇都宮浄人『地域再生の戦略―「交通まちづくり」というアプローチ』(ちくま新書・2015年)(第1章・第2章)
- ・宿利正史・長谷知治『地域公共交通政策論(第2版)』(東京大学出版会・2024年)(第1章・第2章)
- ・国土交通省「地域の公共交通を取り巻く現状と検討の視点・課題」<https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/transport/content/001728295.pdf>

- ・交通政策白書(令和5年版) 第Ⅱ部(73～88頁)
<https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/transport/content/001613614.pdf>

2. 欧州も、日本と同様、人口減少と高齢化の進行という悩みを抱えるなかで、地域公共交通の再生に向けた様々な取り組みをしています。その代表例として、オーストリアのフォアアルベルク(Vorarlberg)州でどのような取り組みがされているか、以下の【参考となる文献②】に掲げた文献等の記述内容を踏まえ、説明してください。
- 【参考となる文献②】
- ・宇都宮浄人・柴山多佳児『持続可能な交通まちづくり―欧州の実践に学ぶ』(ちくま新書・2024年)(特に第2章・第3章)

3. 欧州と日本では、地域公共交通政策に関してどのような違いが見受けられるかを対比して説明してください。両者の対比を踏まえたうえで、日本の地域公共交通が直面する課題を解決するためにどのような取り組みを実施するべきか、あなたの意見(提言)を述べてください。その際には、あなたの提言を実施するにあたりどのような課題(障害)が発生しうるかを想定したうえで、それに対処する策についても言及してください。なお、これらについて記述するには、以下の【参考となる文献③】に掲げた文献等が参考になります。
- 【参考となる文献③】
- ・宇都宮浄人『地域再生の戦略―「交通まちづくり」というアプローチ』(ちくま新書・2015年)
- ・宿利正史・長谷知治『地域公共交通政策論(第2版)』(東京大学出版会・2024年)
- ・宇都宮浄人・柴山多佳児『持続可能な交通まちづくり―欧州の実践に学ぶ』(ちくま新書・2024年)
- ・朝日新聞:「(Sunday World Economy) ローカル線「公」が支える欧州」2021年10月3日付朝刊4頁(東京本社)
- ・朝日新聞:「欧州、赤字の鉄道も公的支援で維持『公共交通』の意識に違い」<https://www.asahi.com/articles/ASPB10S31P9YPLFA00N.html>

- 第2次選考
- ①自己アピール(5～10分)
- いかに自分が本学法学部で学ぶ意欲を有しているか、そして入学に値する人物であることを口頭でアピールする。
- ②面接試験(約20分)
- 第1次選考の際に提出したレポートやエントリーシート、また自己アピールの内容等に関する質問に回答する。

- 【選考方法(法律専門職専攻)】
- ①小論文試験(90分)
- 法律に関連する実用的な文章等を素材とした問題と、あらかじめ指定されたオンライン授業動画を視聴し学習してきたことを前提とした問題とで構成される試験を行う。
- ②面接試験(約20分)
- 法律専門職専攻で学修することおよび卒業後に法律の専門的知識を活かす職業に就くことに対する意欲・志向性等に関する質問等に口頭で回答する。
- 詳細は入学試験要項で確認すること。

- 【選考のポイント(法律専攻、政治専攻)】
- 第1次選考
- ①エントリーシート
- 志願理由や自己推薦理由を、限られたスペースに要領よくまとめる必要があります。自分は何のために大学で法律や政治を勉強したいのか、自分について評価してほしいところなどを、じっくりと考えて明確にし、読み手に的確に伝えられるように記述しましょう。
- ②レポート:ALT(アカデミック・リテラシー・テスト)型レポート
- ALT型レポートでは、(1)文献等を正確に読めるか、(2)収集した情報を一定の基準に従って整理・分類できるか、(3)整理・分類した情報をテーマに則して的確に分析できるか、(4)分析結果に基づいて論理的に結論を導き出し、明確に表現できるか、という4点が重要になってきます。
- とはいえ、最初から完璧主義を貫こうとすると挫折しやすいので、ある程度文献を収集した段階で、ひとまず書いてみることをお勧めします。その後、第三者の視点で欠陥を発見し、文献をもう一度読み直したり、書いた文章を修正したりするプロセスを繰り返し、完成度を高めていくとよいと思います。

- 第2次選考
- ①自己アピール
- 自己アピールは、エントリーシートで記述した自己推薦理由などを口頭で説明するものです。5分以上10分以内と時間が限られていますので、要領よく、しかし説得力のあるアピールをすることが肝要です。もっともアピールすべきことは、「あなた自身がいかに國學院大學法学部で学ぶ意欲を有しているか、そして入学に値する人物であるか」です(たとえば、國學院大學の校風を延々と述べても評価が高くなるわけではありません)。それから、プレゼンテーションの方法を工夫することも大事です。コンピュータ、AV機器、フリップなどの使用は、うまくいけば、より効果的なアピールにつながりますが、必ずそうしなければならないわけではありません。まずは自分のアピールしたい内容をしっかりと決め、それとのバランスを考えて方法を選択した方がよいでしょう。

②面接試験

面接試験では、自己アピールや、第1次選考で書いたレポート等についての質問を受けることになります。レポートの内容について疑問と思われる点、レポートに書かれていないけれど重要な点、関連する事項についての補足的な説明を求められます。それらに適切に答えるためには、提出した後も、テーマについて継続的に情報を収集し、自分のレポートを見直しておくことが大切です。そして、書いていたときには気づかなかった問題点を発見したり、提出後に新たな事態が生じて事情が違ってきている場合などには、速やかにその点を補足、訂正しておくことが重要です。

【選考のポイント(法律専門職専攻)】

①小論文試験

小論文試験では、大別すれば、法律に関連する実用的な文章等を試験時間中に読んで答える問題と、指定された法学に関するオンライン授業動画を視聴し学習してきたことを前提として一定の形式に従った論述に取り組む問題が出題されます。この試験では、特に前者の問題で、実用的な文章等に関する基礎的な読解力、情報の整理・分析能力、論理的思考力を、また、とくに後者の問題で、一定の形式に従って自分の意見を表現することのできる力を測ります。

②面接試験

面接試験では、法学部の法律専門職専攻で学修することおよび卒業後に法律の専門的知識を活かす職業に就くことに対する意欲・志向性や、これらを裏付けるコミュニケーション能力等に関する適性を測ります。面接試験では、エントリーシートの記述内容等を参考にしつつ、質問等が寄せられます。このため、エントリーシートに、あらかじめ、法学部の法律専門職専攻を志願する理由(特に、卒業後にどのような法律の専門的知識を活かす職業に就きたいと考えているのか)、あなた自身の自己推薦の理由、あなたが最も関心を有する社会的出来事について、限られたスペースに要領よくまとめ、読み手に的確に伝わるよう記述しておきましょう。

経済学部

経済学科・経営学科

志望する各学科のアドミッション・ポリシーへの適合の度合い、基礎知識・日本語能力・意欲・表現力などを、以下の選考方法を用いて総合的に判断します。

【出願要件】

経済学部 公募制自己推薦(AO型)のアドミッション・ポリシーの内容を十分に理解した上で、以下の[1][2][3]の要件を満たす者。なお、アドミッション・ポリシーは本学経済学部のHPもしくは入学試験要項で確認すること。

- 高校での学習や生活の中で、経済や経営の現状や歴史に関する研究・授業・部活動の経験を踏まえた明確な問題意識を持っている者。
- 自らの卒業後の具体的な将来像を持ち、その将来を実現するために、なぜ経済学科・経営学科を選択し、そこで何を学ぼうとするのかが明確である者。
- 以下のいずれかの資格・スコアを有する者。

- 英語検定試験でCEFRのA2以上のスコア(P.014参照)
- 日本数学検定協会主催の実用数学技能検定で2級以上
- 下記a・bの両方
 - 全商協会主催の簿記実務検定試験1級(会計および原価計算)
 - 全商協会主催の英語検定試験2級以上※aの要件は、日本商工会議所主催の簿記検定試験2級以上もしくは全国経理教育協会主催の簿記能力検定1級以上に代替可とする。

【社会人受験資格】

本入学試験の出願資格・出願要件を満たす者のうち、令和8年4月1日時点で満22歳以上である者に対しては、社会人を対象とした選考を行う。就業経験は問わない。なお、出願要件[3]に示す資格・スコアは、出願前3年以内に取得したものを有効とする。

対象者には、第1次選考において、社会人用のエントリーシートおよび履歴書の提出を課す。その他の選考方法は、下記【選考方法】に示す内容と同一とする。詳細は入学試験要項で確認すること。

【選考方法】

■第1次選考

- 総合問題試験(90分)
数百字程度の記述問題を複数出題し、全体で概ね1,000～1,500字程度の総合問題試験を行う。
- 書類選考
 - 調査書
 - エントリーシート(詳細は入学試験要項で確認すること)
 - 活動レポート(詳細は入学試験要項で確認すること)

■第2次選考

面接試験(約20分)

詳細は入学試験要項で確認すること。

【選考のポイント】

①アドミッション・ポリシーについて

経済学部アドミッション・ポリシーをよくお読みください。学部のアドミッション・ポリシーは、入学にあたっての基本的に必要とされる能力、学科のアドミッション・ポリシーは、入学後に必要とされる興味・関心を示しています。志望する学科のアドミッション・ポリシーはすべてに当てはまる必要はなく、該当する関心や適性を掘り下げる姿勢が重要です。

②総合問題試験

総合問題試験では、経済・経営現象に関する文章をその場で読解し、その文章に対する設問に解答する論述試験が行われます。本試験で測ろうとしている適性は主に以下の4点です。

- 文章中の論理を正確に理解し読み解く能力
- 数表やグラフなどの読解・解釈能力
- 理解した内容を正確な文章で論述できる能力
- 日常的な経済・経営現象への興味・関心

③エントリーシート・面接試験について

面接試験はエントリーシートの内容に基づいて行われます。高校時代にどのようなことを学習し、関心を抱いてきたのか、大学でどのようなことを成し遂げたいのか、なぜ本学部の当該学科を志望するのか。エントリーシートの各項目は、ばらばらに論じるのではなく、それぞれがどのように関連しているのかを意識して記入してください。エントリーシートは面接試験における問いかけの起点となるものですので、枠いっぱいには詳細に書くというよりも、ポイントを絞ってわかりやすく書くことを心がけてください。目安は各項目5行程度とするとよいでしょう。

人間開発学部

初等教育学科・健康体育学科・子ども支援学科

【初等教育学科 出願要件】

本学人間開発学部初等教育学科で学びたいという意欲を強く持ち、自ら学ぼうとする学修意欲および日本の教育への関心と理解を有し、教育の諸領域における各種問題に関する専門的な知識の修得を目指して「教育の専門家」として小学校教諭を志す意欲の高い者。

【健康体育学科 出願要件】

本学人間開発学部健康体育学科で学びたいという意欲を強く持ち、「健やかな人生が人々の幸せにつながるという理念」や、「健康保持・増進のための重要な要素である身体運動」、「胎児から寿命を全うするまでの全期間に関わる身体諸機能のあり方」に関心があり、中・高等学校の保健体育教諭、健康やスポーツ分野のリーダーを目指す者。

【子ども支援学科 出願要件】

本学人間開発学部子ども支援学科で学びたいという意欲を強く持ち、子ども・子育て支援への関心を有し、幼児教育・保育の領域に関する専門的な知識や技術を意欲的に学び、幼稚園教諭・保育士を志す者。

【選考方法(共通)】

■第1次選考(書類選考)

- レポート(2,000字程度)
人の育ちを支援するという観点から自らが目指す将来像について、考えをまとめて記述しなさい。必ず表題をつけること。
- 活動計画書(600字以内)
- 活動報告書および添付資料
資格取得や検定試験合格、あるいはスポーツなどで顕著な成績を有している場合には、添付資料目録に記載し、必ずその成績の証明となるものを添付すること。
- エントリーシート

■第2次選考

- 小論文試験(1,000字程度、90分)
- 【初等教育学科・健康体育学科】面接試験(約15分)
大学での勉学・研究に対する目的意識、就学意欲などについての面接を行う。【子ども支援学科】面接試験および口頭試問(約20分)
大学での勉学・研究に対する目的意識、就学意欲などについての面接、および口頭試問(下記参照)を行う。【子ども支援学科】口頭試問
(1) 大学が用意した絵本3冊の中から、1冊を選び黙読する。
(2) 選んだ絵本等に関しての口頭試問を行う。
※絵本は、公益社団法人全国学校図書館協議会第28回(2016)「よい絵本」

のリストから、大学が3冊選書する。

【選考のポイント(共通)】

「人間の能力開花、開拓」に関心があり、「幼稚園教諭・保育士、小学校教諭、中学校・高等学校の保健体育教諭、あるいは健康やスポーツ分野のリーダーになりたい」という強い意欲を持つ人を求めます。「人間開発」という言葉には、さまざまなストレスやプレッシャーなどにより閉じられたままになっている能力や才能を「弾ける」「拓く」「拡がる」ように引き出し、「開花させる」という意味が込められています。それゆえ生徒や指導の対象となる人の「頑張ることを応援する教育」に向けて積極的に勉強する人の意欲を評価します。

上記を踏まえ、レポート課題に関連したことを調べ、卒業後の進路を含め、自分の考えをまとめておく必要があります。

■第1次選考

- レポートの作成にあたっては、次の点に留意してください。
- 広く書物や文献などを利用して関連する内容について調べること
 - 論理的な筋道を立てた内容とすること
 - 読む人に分かりやすく伝わる文章にすること
 - 自分の経験や考えも含めること
 - 利用した資料は、書名や著者、発行年月日などが分かるように出典を明確に記載すること

■第2次選考

- 小論文試験(全学科共通)
上記のレポートに関する留意点bとcに準じた解答をすることが望ましいです。
- 面接試験(全学科共通)
学部・学科に対する志向性および学生生活、卒業後の進路について、今後の展望をもっていることが望ましいです。
- 口頭試問(子ども支援学科のみ)
口頭試問では、読み聞かせは行いません。絵本を通して子どもたちに伝えたいことを、これまでの絵本の経験に基づいて回答できることが望ましいです。
詳細は入学試験要項を確認してください。

観光まちづくり学部

観光まちづくり学科

【出願要件】

観光・交流、まちづくりに興味・関心を持ち、持続可能な地域社会の実現に向けて、勉学に主体的に取り組み、かつ、他者と協働して積極的に学ぶ意欲があること。

【選考方法】

■第1次選考(書類選考)

- 地域分析レポート(1,200字以内)
あなたが住んでいる地域やゆかりのある地域を選び、その地域の資源(文化、生活様式、景観、自然、生きもの、産業、伝統行事、イベント、教育、コミュニティ等)を挙げ、そうした資源がどのような魅力および価値を持っているかについて、根拠を示しながら簡潔に記述すること。また、選んだ地域や資源が今後も持続可能であり続けるためには、どのような課題があるかについて、根拠を示しながら簡潔に記述すること。なお、この地域分析レポートに20字以内のタイトルを付け、キーワードを3つ示し、主要な参考文献を最大5件まで明示すること。ただし、タイトル・キーワード、参考文献の部分は本文1,200字に含めないものとする。
- 解決策提案シート(A3サイズ用紙・片面・1枚)
地域分析レポートを踏まえて自ら解決策を構想し、A3サイズ用紙1枚を用いて分かりやすく表現すること。表現形式は問わないが、半分(A4サイズ)に折りたたんで出願すること。なお、この解決策提案シートに20字以内のタイトルを付けること。自作も含めて図表や写真等を使用してもよい。引用する場合は出典を明らかにすること。
- 志望理由書(1,000字以内)
志望理由、自分自身、地域への興味・関心の3つの視点から簡潔に記述すること。
- 活動レポート・添付資料目録(800字以内)
自分自身の課題研究、探究活動、部活動、学校行事、生徒会・委員会、ボランティア活動、各種コンクール、習い事、留学・海外経験、資格・検定取得に向けた活動、その他の学びや社会経験等の一つ以上について、20字程度のタイトルを付け簡潔に記述すること。なお、上記活動を証明できる書類等の添付を認める。
- ①・②・③・④の書類はすべて原本を送付し、コピーを手元に残しておくこと。

■第2次選考

面接試験(約20分)

コピーした解決策提案シートを提示しながら、その内容について5分で説明すること。(解決策提案シート以外のものは用いないこと。)その後、解決策提案シート、地域分析レポート、志望理由書、活動レポート、調査書に基づく質疑を行う。

【選考のポイント(共通)】

■第1次選考

①地域分析レポート

対象地域を選んだ理由や、その地域と自分自身との関係性を明示することがまず大切です。例示した資源に限らず、地域の資源をどのように捉えているか、および、そうした資源が持つ魅力と価値について、具体的な資料や参考文献を挙げながら明確に指摘できることが大切です。また、選んだ地域や資源の持続可能性にどのような問題意識を持っているか、そうした問題意識を背景に、地域の課題をどのように認識しているか、多面的にかつ深く検討できているか、根拠を示しながら論理的に指摘できているかも重視します。さらに、20字以内のタイトルから、全体を俯瞰する力、要点を適切に捉える力、切り取る力も評価します。また、参考文献を過不足なく明示できる客観性と、学びの足跡も評価の対象とします。

②解決策提案シート

提案した解決策について、A3サイズ用紙(片面)1枚という限られた条件の中で、どのように表現したかが評価の重要なポイントになります。表現形式は問いませんので、論理的で独創性に富んだ提案を求めます。また、20字以内のタイトルで、全体を俯瞰する力、要点を適切に捉える力、切り取る力も評価します。なお、出典を明らかにしつつ客観的に引用できる力、さらには、図表や写真等を自作し情報を分かりやすく表現する力も評価の対象になります。

③志望理由書

何のために本学部に入學し、どのように学ぼうと思っているのか、また、社会に出てどのように活躍したいと思っているのかをまず記してください。さらに、自分自身をしっかりと分析し、優れていると思うところをアピールしてください。あなたが住んでいる地域やゆかりのある地域に対して、どのように興味を持ち、どのような関心を抱いているか、また、もしあればそうした地域とどのように関わってきたかを記してください。

④活動レポート

自分自身の学びの経験について、一つでも複数でもよいので、主体的に学び経験してきたことを中心に、設定したタイトルに沿って記してください。なお、活動を証明できる書類等の添付も可能です。

■第2次選考

面接試験では、解決策提案シートの内容を限られた時間で、論理的かつ独創的にアピールできる表現力を評価の主な対象とします。その上で、提出した書類を基に質疑を行い、的確に回答できるかも評価の対象となります。